

## <第3号議案>

### 令和7年度(2025年度)事業計画

気候危機が深刻さを増す中、2024年は産業革命後約1.6℃上昇の史上最高気温となり脱炭素化が急務であることは間違いありません。ただ、多くの課題を抱える「原発を最大限活用する」という方針が第7次エネルギー基本計画の中で示されていることは大変残念に思います。私たちは、原発に頼ることなく、再生可能エネルギー最優先の方向に沿って、全力を挙げて進めていく必要があります。

そんな中、昨年度当法人も大きく影響を受けた太陽光発電増・使用量減に伴う出力抑制が実施され売電量が減となった憤りの事態が生じています。

脱炭素先行地域に選定された生駒市と連携し、2027年度までに完成させる事、引き続きSDGsの最終年2030年までに実施すべき事を明確にし、再生可能エネルギーの更なる普及拡大に努めるとともに、市民が地産地消を目指すまちづくりを共有できるよう啓発活動に取り組んでいきます。

#### 1 市民共同発電所の安定操業及び収益の有効活用

1～5号機の操業状況を把握し問題点の早期発見と対処に努めます。

発電能力のデータを有効に活用し発電量の予測精度の向上を行います。

上記の対応により出資者への安定配当を維持すると共に、将来に向けた活動のため収益の有効活用を進めます。

また、FIT(固定価格買取制度)活用太陽光発電設備の廃棄等費用積立制度について、11年目となった1号機は昨年度より1.4円/kWh(約3.5%)が差し引かれ、更に1～4号機は出力抑制が実施され今年もその影響が予想されます。その実態をしっかりと把握し確認していきます。

#### 2 市民共同発電所6号機の検討(脱炭素先行地域PJと連携)

市民共同発電所6号機(生駒市衛生社クルクル館屋根設置)について、生駒市と連携をとり脱炭素先行地域共同提案者として、再生可能エネルギーの普及・拡大を目指し、維持管理を中心とした対応を検討します。

#### 3 生駒市、いこま市民パワー(ICP)との連携

再生可能エネルギーの普及拡大を進めるべく、生駒市と連携し、エネルギーを切り口に行政・事業者・市民が一体となりまちづくりを進めていきます。

#### ①脱炭素先行地域進捗状況報告シンポジウムの開催

- ・2023年に選定され2027年に向け実践する脱炭素先行地域の進捗状況を、市民に紹介するシンポジウムの開催を生駒市に提案すると共に、連携し開催に向け取り組みます。

#### ②地産再生可能エネルギーの拡大推進

- ・FIT切れ太陽光発電の買取り支援として、CEI出資者に対し感謝を含め優遇対応を継続します。(2円/kWh、ICP買取価格に加算、2026.10まで継続)

### 4 地球温暖化防止啓発活動

#### ①講演会の開催

- ・外部講師(EX:江守正多氏、和田武氏等)を招き、市民に向けたEV・AI等を含めた環境講演会開催に向け取り組みます。

#### ②小学生への啓発活動

- ・くらしのブンカサイ・ららまつり等でのソーラーカー工作教室を実施します。
- ・あすか野小学校へのソーラーカー工作教室出前授業実施に向け取り組みます。

#### ③高校生・大学生との交流イベントの開催

- ・奈良北高等学校から3年連続依頼があり文部科学省SSH(Super Science Highschool)夏期講座での啓発活動を実施します。  
　　<テーマ>近くの市民共同発電所を学ぼう(現地見学研修会実施)
- ・奈良先端科学技術大学院大学オープンキャンパスと同時に開催される、高山サイエンスフェスティバルへの展示出展に向け取り組みます。
- ・帝塚山大学・奈良女子大学・奈良教育大学等との交流イベント開催に向け、推進していきます。

### 5 広報活動への取組強化

#### ① ホームページ及び会社案内リーフレットによる発信

- ・タイムリーな更新により最新情報を提供します。

#### ② プロモーション動画の作成

- ・CEIのこれまでの歩み及び会社概要についてSNSを活用し拡散すべく、プロモーション動画の作成に取り組めます。

③ これまで受賞した全国賞賞状・盾、並びに表彰状の掲載場所・方法を検討します。

## 6 技術開発と実証試験

- ・家庭用自家消費型ミニ発電システム推進のためマイクログリッドタイインバータ、蓄電池を用いた低価格システムの検討と実証試験および経済性の検討を行います。更に、上記で得られたデータをベースに「DIYでの太陽光発電システム」の説明会を実施、市民への啓発を推進します。
- ・EVでの充電と走行距離のデータを取り、経済性などの評価を行い、EVの環境面、経済面での有効性、問題点等を検証し、ホームページへの掲載などによりEV普及による環境面改善のため、市民への啓発を推進します。

## 7 組織強化・人材育成

外部・内部講師による勉強会(Zoom等ONLINE含む)による会員のスキルアップと共に、脱炭素チャレンジカップ2025受賞団体との交流等も模索し今後CEIが進むべく方向を確認していきます。